

## 優秀賞

「100歳時代を生きる」

—余暇のこつ—

福岡県立明善高等学校 二年

原野 真 唯 子

皆さんが子供の頃の夢は何だったろう。ケーキ屋さんにパイロット、現在ではユーチューバーなどの新しい職業も多く生まれている。誰もがたかさんの夢を持っていたのではないだろうか。しかし、物心がつくに従って誰もが将来就くことのできる職業は一つなのだ実感したことだろう。現在、平均寿命がのびているからこそ第二の夢についての考え方が広まっている。

私の祖父の話をした。私の祖父は国土交通省で還暦まで働き、現在では新しいビジネスとして不動産業をしている。七十を過ぎた祖父が働いているのはとても不思議だが生き生きしている祖父をみるのは私もとても元気をもらう。この祖父の元気の源の一つに人生で二つ目の職業が関係していると思う。これがあるから祖父は毎日のラジオ体操やウォーキングを継続しているようだ。祖父にとって仕事とは生きがいな

のだと感じた。

祖父の他にも、私の住んでいる町には多くの高齢な方がいるが、趣味の家庭菜園から畑を買って道の駅に出品したり、新しくお店を始めたりと誰もが自分らしく生き生きとしている。時間がたたくさんあるからこそ、新しい目標を定めて生きていくことが何よりも大切だと思う。

この自分らしくあるべきである老後とは、長いと四十年以上にもなる。この長すぎる時間の使い方を考える練習をすることができるのが学生の「夏休み」だと思う。まず私たちに時間を使うためのヒント「宿題」が与えられる。これがあることで、夏休みの中にある一定時間の使い方は勉強になる。そこからが個人の時間の使い方の力量の見せ所で、趣味、部活、さらに勉強など人それぞれ分かれてくる。そこで、大事なものは、勉強をどれだけしたとか成績がどうかとかそんな話ではなくて、夏休み最終日に振り返ってどんな思いになるかだ。極端な話かもしれないが、それが死んでしまう直前の感覚と似ていると私は思う。自分で自由に決めた時間の使い方はどうだったのか。後悔はないのか。夏休みで学ぶべき一番大切なことはそこにあると私は思う。

現在の多くの学生は夏休みをどう使っているか。暇があればスマートフォンやテレビに向かい、ただただ時間をすごすことも少なくない。夏休み最終日にたまっていた宿題を急い

で終わらせる。これではほとんど何も得られていないと思う。そもそも、夏休みが時間の使い方を学習するという、人生で最も必要なことを学ぶ期間だと気づいていない人がほとんどなのではないだろうか。こんなことでは老後も同じようなことになりかねない。

それを解決する鍵が第二の夢だと思う。この第二の夢は夏休みにおける宿題の役割を果たしている。仕事をするには、最低限の体力・記憶力・そしてやる気が必要だ。これらすべての力を衰えさせないということは健康寿命を延ばすことにもつながる。

人生百年あるとする。

私たちの今の固定観念では五十歳という職場でもベテランで年長者というイメージがある。しかし五十歳とはまだ人生の半分、折り返し地点なのだ。

そこから少しして、一度目の退職をして時間ができたときには、学生時代の「夏休み」を思い出してほしい。昔親にやるべきことは先にやるように、と注意されていたのではないだろうか。長くて、先の見えなかった夏休みの終わりはあつという間にやってきた。人生の終わりもそんなものなのではないだろうか。まだ先だと思っていたことが実はすぐだったりもする。

充実した百年の人生をおくるには、今この夏休みが大切な

のかもしれない。今日今からでも自分の時間の使い方について見直していきたい。